

洛和会京都看護学校 学校評価 令和5年度学校関係者評価結果

令和5年度洛和会京都厚生学校の学校評価に係る自己評価結果を踏まえ、以下のとおり学校関係者評価を行ったので、ここに評価結果を取りまとめ、提出いたします。

令和5年度の最重要課題は、2年後の学校創立40周年及び校舎新築移転を見据えて「選ばれる学校づくり・教育環境の充実」に設定された。令和4年7月に洛和会ヘルスケアシステム理事長が、教職員及び生徒を一堂に集め新校舎建設構想を発表されたことを受けてのことと聞いている。

新しい学校づくりが高度で多様な教育環境を整備充実する契機となることを期待する。

1 基礎データ（令和5年度）

基礎データとして示された生徒数、国家試験合格率、就職率の基礎データを概観する。大学・専門学校ともに新入生の定員割れが取りざたされる中で、生徒数は定員を満たしており、特に問題はない。次に国家試験合格率は看護学科で前年より7.3ポイント低下し90%に、助産学科では5ポイントの上昇となり100%に戻された。看護師合格率は全国平均を上回ってはいるが、100%達成に向けて細部からの見直しを徹底されたい。また、就職率については看護学科、助産学科ともに100%を達成された。就職に強い洛和会京都看護学校のイメージをさらに広めていただきたい。

2 評価項目

(1) 教育理念・教育目的について

学校の教育理念・教育目的並びに学科ごとの教育目標は、単なるお題目ではなく学校存立の支柱であり基盤である。これを生徒がどれだけ理解し、教職員は様々な機会にどれだけ生徒に伝えきれているかを把握し改善する必要がある。その視点で昨年からアンケートを実施いただいたところである。5年度のアンケート結果を見ると、教育理念、教育目的ともに、概ね理解されているようであるが、1割から2割の生徒の理解が不足している。教育目標についても同様であったが、理念・目的の浸透に向けた工夫が望まれる。

学校が新しくなる機会に、本校の教育姿勢を内外に簡潔に知ってもらうための表現の見直しも検討されてはいかがであろうか。

(2) 学校運営について

学校運営で大きく変化したのは、「学校未来会議」の創設であろう。毎週の運営会議では今日的な課題解決の側面が強かったものと思われるが、経営状況も踏まえ、より将来的な方向性を論議し打ち出す場が生まれたことは組織が一丸となって取り組むべき事業の見える化にも有効であろう。さらに職員への情報伝達、課題意識の共有化を図られたい。

なお、かなりの会議や委員会が設置されているようであるが、会議数、開催回数、参加

人数については職員の過度の負担を招くことのないよう精選と適正化に留意いただきたい。会議のための会議が増えることのないよう、また類似の会議を纏めることなども検討されてはいかがであろうか。

(3) 教育課程・教育活動について

前年同様、アンケート調査でシラバスの有用性、カリキュラムの工夫、学習へのフォローについての生徒及び教員の意識を比較されている。シラバスについて役立ったとの評価は看護学科生徒で減少、助産学科と教員で増加した。カリキュラムについても、看護学科で減少、助産学科で増加した。教員については工夫が足りなかったと認識する層が 10 ポイント以上増えている。これは、国家試験合格率の低下を意識されてのことであろう。自己評価でも分析されていたが、学習の躓きに対しては教員側の支援策に改善の余地が残されている。まずは、生徒との日常的な対話により何に躓いているのかを感じ取り、教員同士が情報を共有しあえるポートフォリオを教育活動に入れるなど工夫されたい。教員の見逃しのない観察と迅速な対策、教員相互のさらなる連携を期待したい。

(4) 学習の到達度について

令和 5 年度の貴校の看護師国家試験合格率は、看護学科で 90%に減少、助産学科では 100%となった。看護学科の合格率は全国平均を上回る数値（全国平均は 87.8%と、ここ 5 年で最低）であったが、自己評価で述べられたように全国新卒学生の合格率（93.2%）よりも低い結果となっている。ただし、学校定員における合格率 90.0%は府内の看護専門学校では第 4 位とのことであり、また、前年度の合格率（97.3%）は府内専門学校の上位 3 位であった由。前向きな指導を続けられたい。

次年度においては、年間の学修計画と到達目標をしっかりと打ち立て、模試等のデータ分析や SNS 等で日常的に問題に触れる機会を提供されるなどの具体的方策を検討いただきたい。

(5) 奨学金など生徒への支援状況について

「大学等における高等教育の修学支援新制度」対象校の認定を受け、令和 5 年度初めての申請を行った。該当生徒は高校在籍中に予約採用者として認定済みの新入生を含めて 17 名(1 年生 10 名、2 年生 4 名、3 年生 3 名の 1 年生 10 名)とのこと。制度発足時の国の試算では該当者は 2 割程度との見込みであった。次年度についても同様に 1 年生 10 名程度が認定されると思われ、更には 3 人以上の多子世帯を対象とした区分の新設が決定しており、受給者は倍増するものと想定される。なお、令和 7 年度からは当該多子世帯の所得制限も撤廃されることから、受給対象生は間違いなく増加し、2 割を超えることも想定される。入学生への周知徹底により一層努めていただきたい。

また、昨年の外部評価結果において、当該制度は社会人には適用され難い面があることから、そうした層についてのサポートを要望されていたが、「社会人生活応援貸付金」「洛和会就学応援貸付金」の創設が打ち出された。加えて、すでに国家資格を取得されている

受験生には「ダブルライセンス優待制度」として実務経験年数に応じた実習費の減免がなされるとのことである。国の「専門実践校育訓練給付制度」と合わせ、貴校が進めるリカレント・リスキリングの先駆的な取組みを評価したい。

(6) 教育資材・教育環境の整備について

昨年もデジタルサイネージや電子黒板、書画カメラを初め分娩介助実習用機器や分娩用胎児モデル等、新生児の沐浴実習用製品等を充実されたが、引き続き、デブリーフィング・データ管理システムの新規購入や教育資材の補充などが行われている。行政の補助金等も活用して引き続き充実を図りたい。

さらに、校舎新築移転を見越して、設備・備品の整備・補充を生徒目線も入れて計画的に進めていただくとともに、新設の図書館では開館時間の延長やラーニングコモンズに対応できる有効な活用方法を検討いただき、教育環境の一層の充実を図りたい。

(7) 入学志願者増の取組について

少子化の影響もあり、入学志願者は減少傾向が続いている。自己評価でも述べられているが定員割れの学校が年々増えてきており、入学志願者増の取組は即効薬がないことも理解できる。しかし、エッセンシャルワークの必要性はコロナ禍でも再認識されたところであり、看護師・助産師の役割は今後の超高齢化社会においてはますます欠かせない。

そこで、入学志願者増加策としては、まず、学校名をいかに浸透させるか、どこで、どのように、どんな媒体を用いて PR するか の指針策定が不可欠である。学校未来会議等から学校名の変更案が出されたが、従来の「厚生学校」が若い人には伝わりにくく、「看護」の検索でヒットしない等の弊害も見られたことを改善しようとの提案であり、令和 6 年度からは「洛和会京都看護学校」へと名称が変更されることが決定した。これを好機ととらえ学校名の積極的な浸透を図りたい。

また、オープンキャンパスについては初めて夜間開催を行ったところである。加えて、遠方からの入学志願者獲得に向けて WEB オープンキャンパスなどきめ細かな取組みを受験生に広く知っていただくことも肝要かと思われ、検討を重ねていただきたい。

さらには、受験しやすい制度、方法についても研究いただき、具体化されることを期待する。

(8) 特別活動について

新型コロナウイルス感染症によって、課外での特別活動が縮小されてきたが、令和 5 年 5 月の第 5 類感染症への移行から、復活した事業も多くみられた。一つは生徒の主体性を軸に実施された「水脈祭」である。模擬店も開かれ子供たちの声が校内に満ちた。また、看護への誓い（キャンドルセレモニー）も東部文化会館で催され、保護者や高校関係者らも観覧された。

とりわけ中止を余儀なくされていた研修旅行の再開は有意義な取組みだったものと思われる。今回は、生徒の意見を取り入れながら企画されたようであるが、次年度以降も生

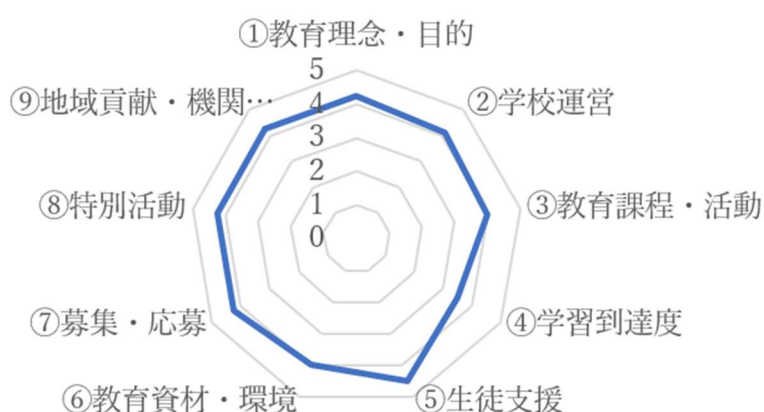
徒の主体性を育む活動として実践されたい。

(9) 地域・社会への貢献、他機関との連携状況について

洛和会京都看護学校は、地域医療の中核を担う洛和会ヘルスケアシステムの一つとして地域とのかかわりを重視している。地元教育機関とのつながりやボランティア活動への協力など、学校及び生徒の社会貢献をさらに根付かせ、地域の中の看護学校として住民に親しまれ、社会的役割を担えるよう、地域の諸機関と連携・協調・協働して「洛和会京都看護学校ならではの」との信頼と評価を獲得していただきたい。

3 レーダーチャート

項目	評点
①教育理念・目的	4.25
②学校運営	4.12
③教育課程・活動	4
④学習到達度	3.5
⑤生徒支援	4.5
⑥教育資材・環境	4
⑦募集・応募	4.25
⑧特別活動	4.25
⑨地域貢献・機関連携	4.25



以上、「洛和会京都看護学校 学校評価実施要綱」に基づき、校内委員会がまとめた令和5年度の自己評価結果を学校関係者により点検・評価を行った。

特別活動、地域貢献については新型コロナウイルスの収束状況に応じて取組みが再開されたことから加点した。その他、新校舎竣工が次年度に迫っている中、夜間帯のオープンキャンパスの実施など精力的な志願者増へ取り組まれていることや生徒や教員のアンケート結果を受け止め、改善に向けた取組み姿勢を評価した。一方、学習到達度については看護学科において国家試験の昨年度実績を下回ったことから低い評価とした。

以上により、今年度の評点平均値は4.12となり、僅かながら前年を上回った。

引き続き、看護師国家試験合格率100%を目指して、より一層学習支援を充実させ、新しい学校が更なる飛躍へとつながることを期待したい。

本評価結果を共有いただき、PDCAサイクルによる学校改善に役立てていただきたい。

(参考)

学校関係者評価委員会

令和6年6月21日

学校法人洛和学園評議員1名、同窓会関係者1名、実習先関係者2名 計4名